

“百年の信頼を、未来につなげる”

株式会社鳥羽洋行
2025年3月期
決算説明会資料

2025年5月9日(金)

- I. 2025年3月期決算について
- II. 2026年3月期の戦略及び見通し

I. 2025年3月期決算について

I. 2025年3月期決算について

< 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

	24/3月期	25/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	28,449	31,565	+11.0%	
営 業 利 益	1,514	1,684	+11.2%	・売上総利益は前期比+368百万円で8.5%増 ・販管費は前期比+7.1%
営 業 利 益 率	5.3%	5.3%		
経 常 利 益	1,618	1,812	+12.0%	
経 常 利 益 率	5.7%	5.7%		
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,074	1,231	+14.6%	
当 期 純 利 益 率	3.8%	3.9%		

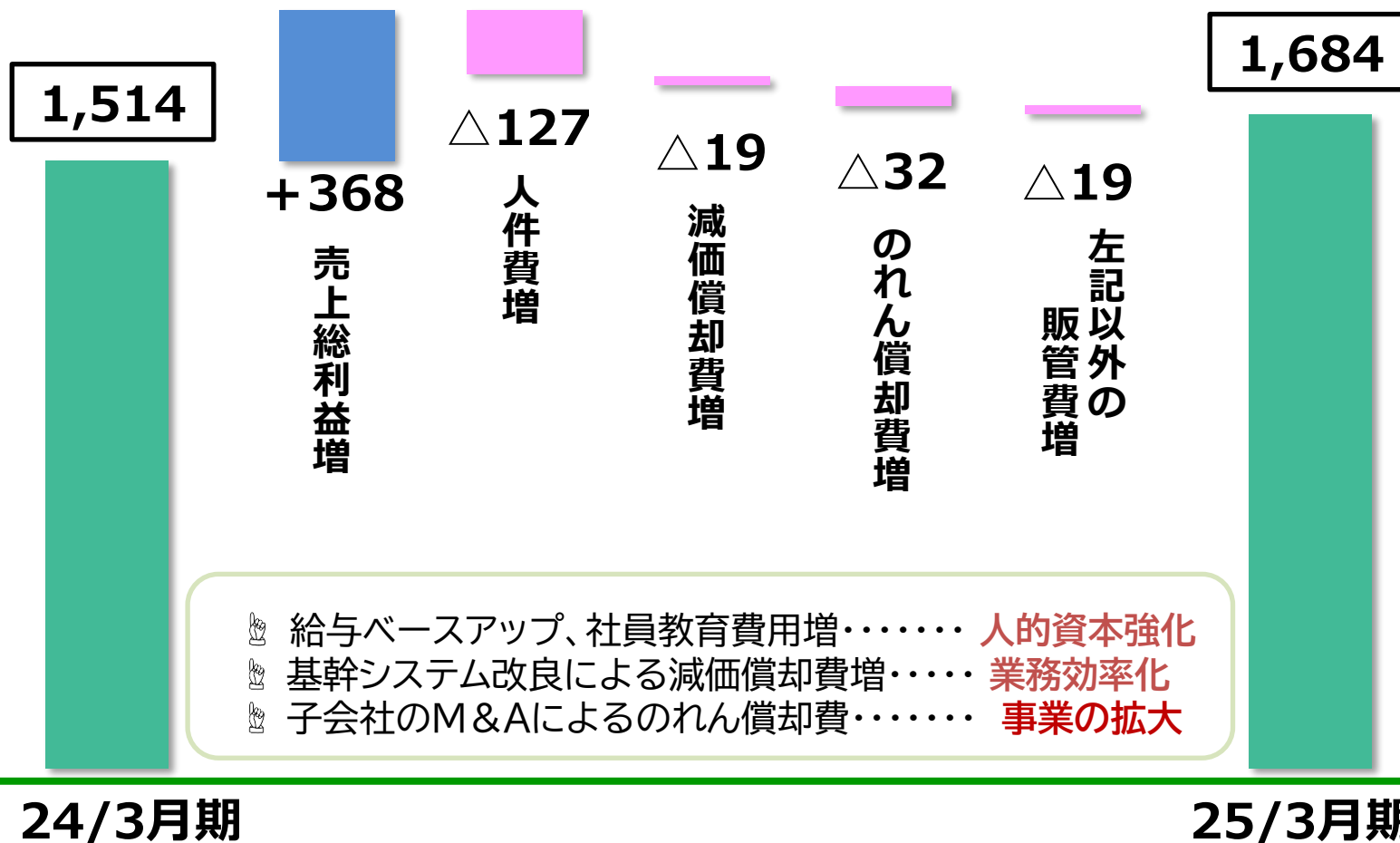
Point !

- 連結売上高は300億円を突破し、前期比で11%増。
- 単体売上高は前期比で6%増、中国子会社においても大幅増。

I. 2025年3月期決算について

<連結営業利益増減分析>

(単位:百万円)

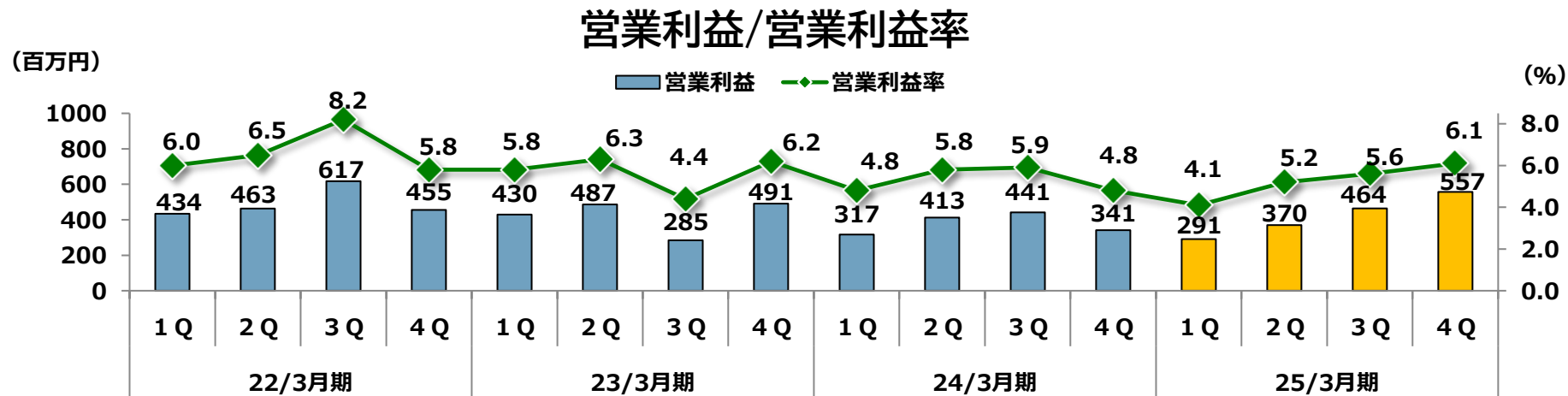
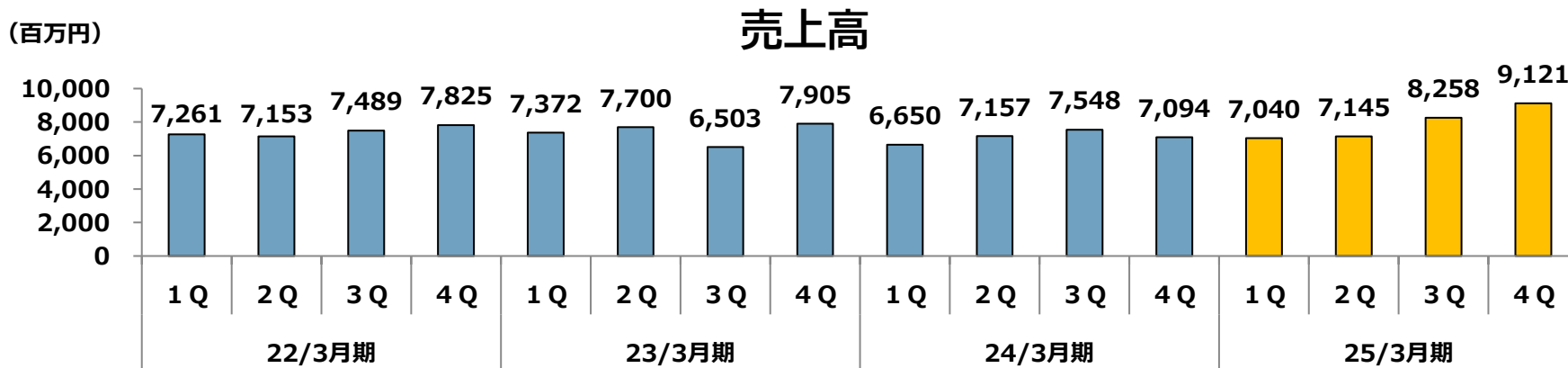


- ④ 給与ベースアップ、社員教育費用増…………… 人的資本強化
- ④ 基幹システム改良による減価償却費増…………… 業務効率化
- ④ 子会社のM&Aによるのれん償却費…………… 事業の拡大

※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

I. 2025年3月期決算について

<四半期毎の連結売上高/連結営業利益の推移>



Point !

●売上高 : 今期3Qより、半導体関連が回復基調及び自動車関連設備向けが好調に推移。

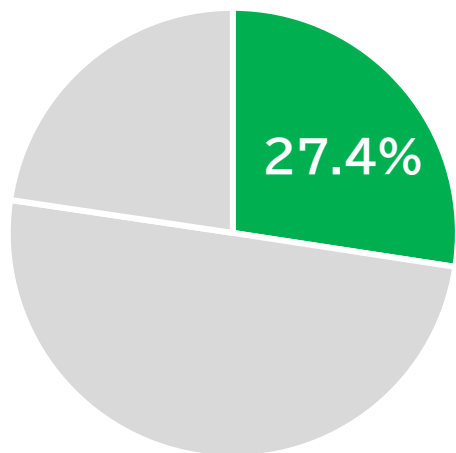
I. 2025年3月期決算について

<部門別実績>

制御機器

連結売上高

86億53百万円



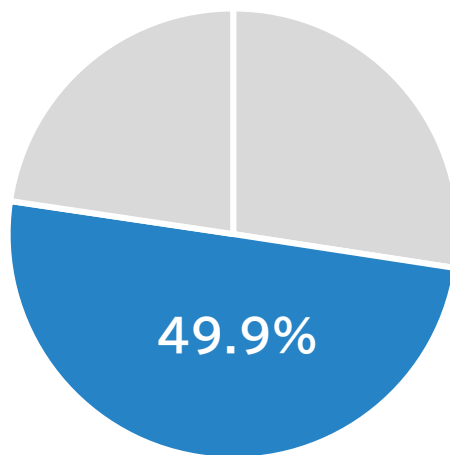
得意先の業種

デジタル機器/半導体・液晶製造装置/基盤実装機/自動車・車載部品/工作機械等

FA機器

連結売上高

157億59百万円



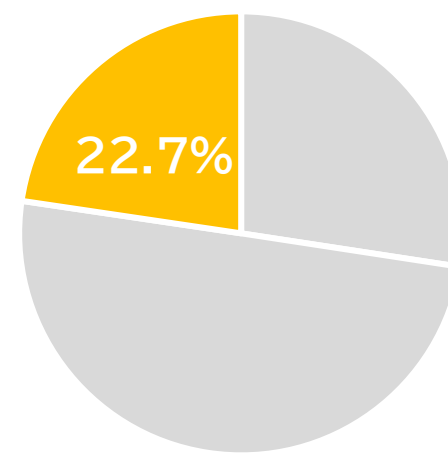
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/OA機器/医療機器/食品機器等

産業機器

連結売上高

71億53百万円



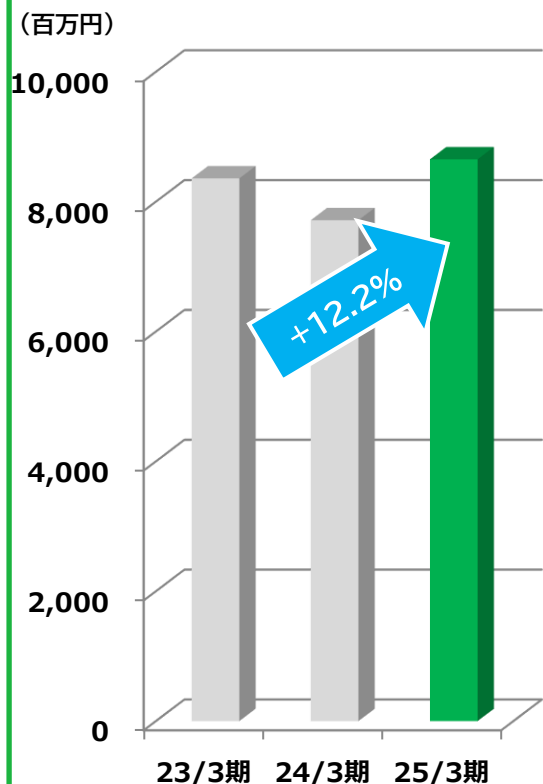
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/精密機器等

I. 2025年3月期決算について

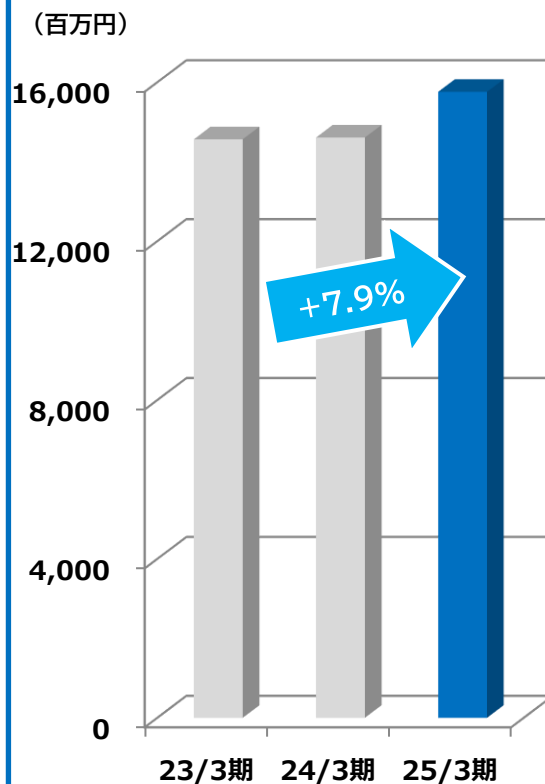
<部門別連結売上高推移>

制御機器



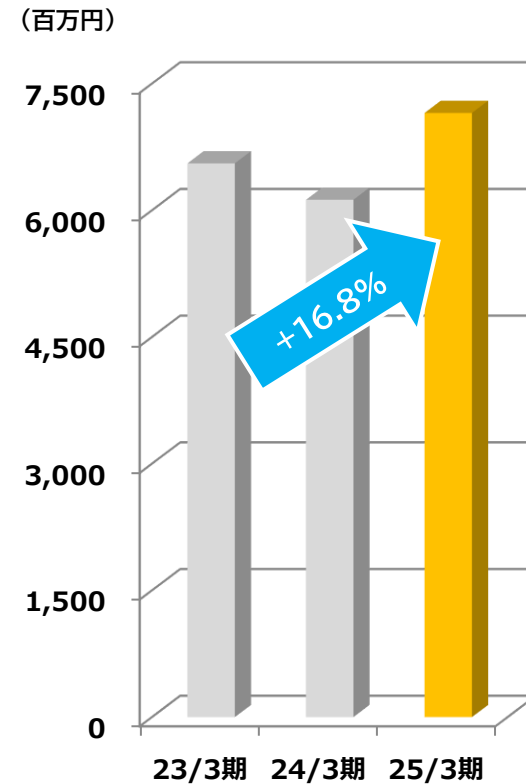
国内の精密機器に関連する得意先への販売が好調に推移。生成AI等の高性能半導体に係る設備投資需要が拡大。

FA機器



国内では自動車・車載部品関連得意先へ、中国では電子部品関連得意先への産業用ロボット及びマウンターの販売が好調。

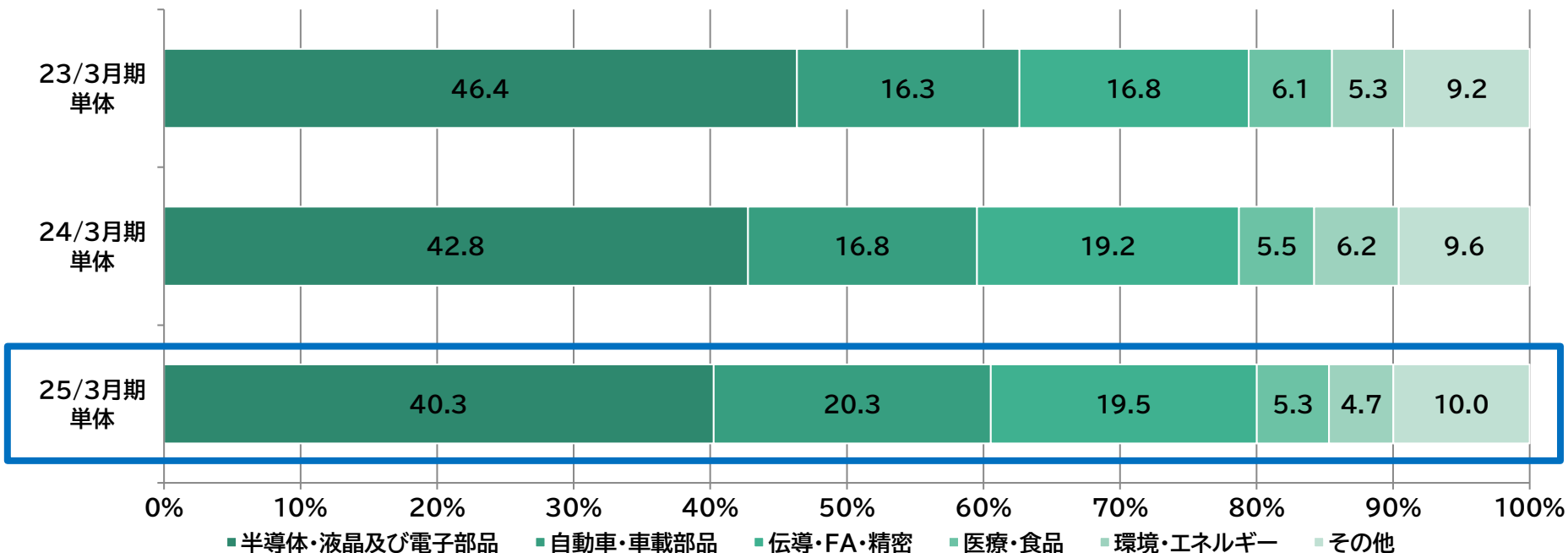
産業機器



各種生産現場向けの什器備品や機械工具類の販売が好調。下期より半導体設備向けのろ過フィルターの販売が好調。

I. 2025年3月期決算について

<業種別売上構成比(単体)推移>



<半導体・液晶及び電子部品>

生成AI用高性能半導体等の需要は拡大したが、その他停滞傾向。(前期比 Δ 2.5P)

<自動車・車載部品>

車載関連の設備投資が旺盛に推移し、構成比で20%を達成。

当社目標「自動車関連の構成比率25%」へ向けて順調に推移。(前期比+3.5P)

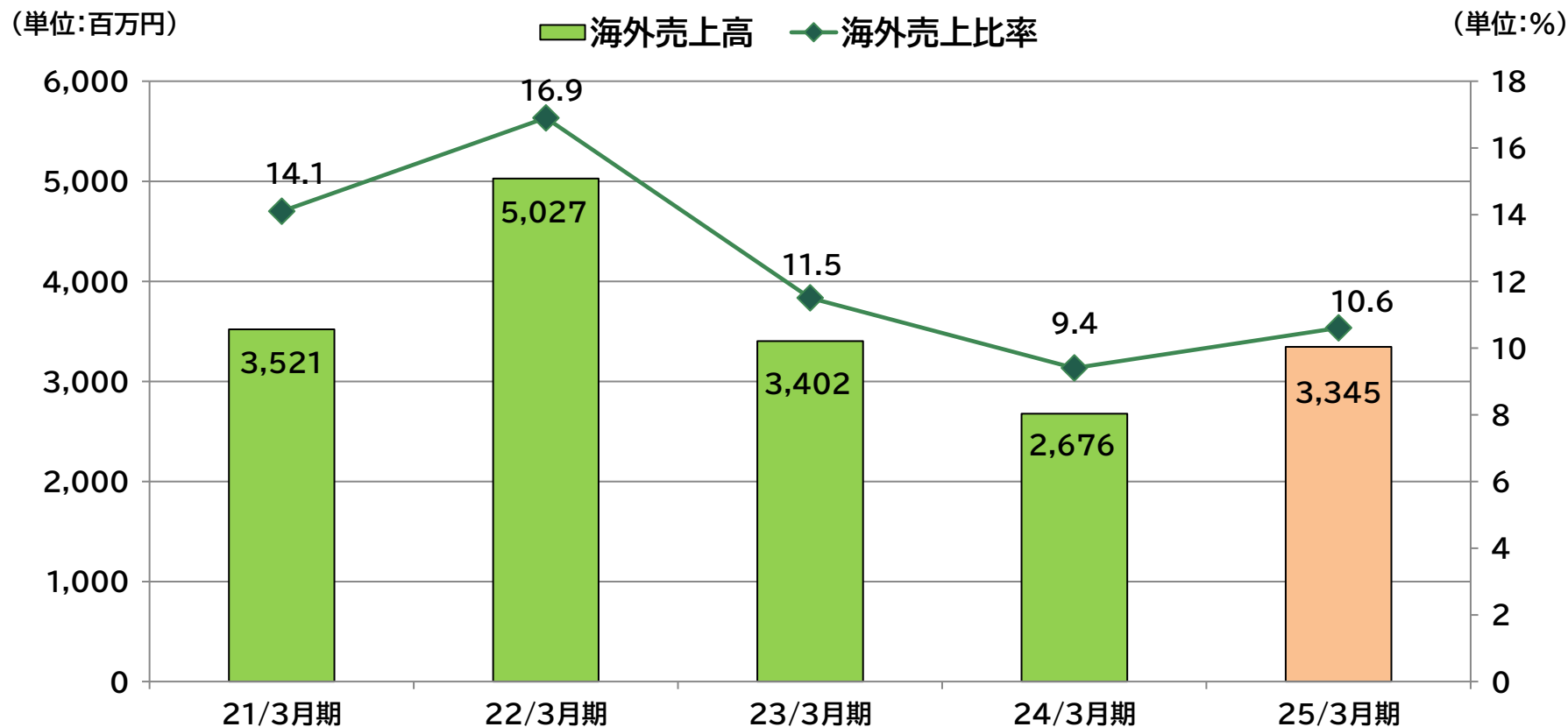
<電動・FA・精密>

生産現場の国内回帰により、精密機器関連向けの販売が増加。(前期比+0.3P)

Point !

I. 2025年3月期決算について

<海外売上高・海外売上比率(連結)>



Point !

中国の経済成長は鈍化傾向であるが、中国子会社における各種デバイス向け電子部品に関連する得意先向けのFA機器販売が拡大。

I. 2025年3月期決算について

< 連結貸借対照表の概要 >

(単位:百万円)

	24/3月末	構成比 (%)	25/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	24,596	76.6	23,284	75.8	
現金・預金	12,648	39.4	10,472	34.1	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	11,387	35.4	12,022	39.1	
商品	351	1.1	604	2.0	
固定資産	7,527	23.4	7,443	24.2	
資産合計	32,124	100.0	30,728	100.0	
流動負債	11,053	34.4	9,280	30.2	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	9,868	30.7	8,474	27.6	
固定負債	580	1.8	465	1.5	
負債合計	11,633	36.2	9,746	31.7	
純資産合計	20,491	63.8	20,982	68.3	
負債純資産合計	32,124	100.0	30,728	100.0	

Point !

構成比に大きな変化はございません。

I. 2025年3月期決算について

<連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(単位:百万円)

	24/3月期	25/3月期	2025年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	2,742	△752	<ul style="list-style-type: none">・税金等調整前当期純利益の計上 (+1,843百万円)・減価償却費 (+174百万円)・仕入債務の減少 (△1,427百万円)・法人税等の支払 (△619百万円)・売上債権の増加 (△558百万円)
投資活動によるC F	688	△579	<ul style="list-style-type: none">・定期預金の預入 (△500百万円)・有形、無形固定資産の取得 (△92百万円)・投資有価証券の売却 (+34百万円)
財務活動によるC F	△843	△950	<ul style="list-style-type: none">・借入金の返済 (△267百万円)・自己株式の取得 (△202百万円)・配当金の支払 (△481百万円)
現金及び現金同等物 に係る換算差額	47	106	
現金及び現金同等物 の増減額	2,635	△2,175	
現金及び現金同等物 の期首残高	10,012	12,648	
現金及び現金同等物 の期末残高	12,648	10,472	

Ⅱ．2026年3月期の戦略及び見通し

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

<2026年3月期の市場環境予想>

◆ 半導体関連

生成AI関連向けの高性能半導体需要は継続的に好調に推移する見込み。

◆ 自動車・車載部品業界

ADAS(先進運転支援システム)とHV関連の設備投資が堅調に推移し、自動車・車載部品関連の生産設備向けの売上が好調に推移する見通し。

◆ 自動化システム

引続き、生産現場における労働力不足を補う自動化システム案件は増加傾向にあり、ロボット等FA機器の販売は好調に推移する見込み。

◆ 環境負荷低減商材

カーボンニュートラルに向けた取組みが拡大。特にサプライチェーン排出量(Scope)の数値化が進むことで、CO2排出量削減に対する要求が高まる。環境に配慮した商材の需要が高まる見込み。

◆ M&A(事業の多角化)、国内営業所の拡充

理化学系商社の連結子会社化により、シナジー効果が発揮され売上拡大の見込み。また、前期に四日市営業所が新設され、国内営業所が23拠点となり、更なるサービスの向上と新規開拓強化。

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

<2026年3月期の業績予想>

(単位:百万円)

	25/3月期 (実績)	26/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	31,565	33,000	4.5%
営業利益	1,684	1,850	9.8%
営業利益率	5.3%	5.6%	0.3P
経常利益	1,812	1,950	7.6%
経常利益率	5.7%	5.9%	0.2P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,231	1,350	9.6%
当期純利益率	3.9%	4.1%	0.2P

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

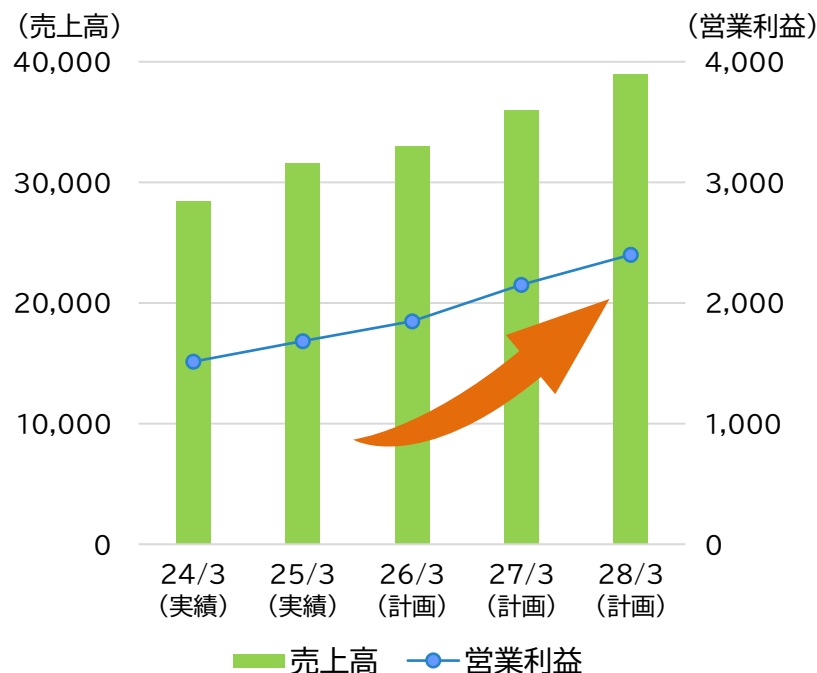
<中期経営計画「Next Stage 2028」について>

新たに2026年～2028年の3ヶ年計画を2025年5月9日にリリース。
経営理念を軸として、中期経営計画戦略を実行し、事業活動を通じた企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

<中期経営計画 数値目標>

(単位:百万円)	計画		
	第77期 (2026/3)	第78期 (2027/3)	第79期 (2028/3)
売上高	33,000	36,000	39,000
営業利益	1,850	2,150	2,400
経常利益	1,950	2,250	2,550
当期純利益	1,350	1,550	1,700

<売上高と営業利益の推移> (単位:百万円)



※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

基本戦略 「5つの柱」

～中期経営計画の事業拡大戦略～

1 次世代の柱となるユーザーの新規開拓、育成

- ・積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・自動車・車載部品及び半導体関連顧客への販売強化
- ・M&Aによるシナジーを活かした売上/利益の拡大

2 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

- ・環境負荷や労働負荷を低減できる新たな商材の発掘
- ・カーボンニュートラルに向けたサプライヤーとの連携強化

3 装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化機器とロボットの販売強化

4 技術商社としての存在価値強化(ブランド強化)

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業の推進

5 海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討
- ・海外子会社への人材積極投入



M&Aによる事業規模の拡大
販路拡大に向け継続的に検討



協働ロボットや小型～中型の
産業用ロボット販売に注力



自動化装置ビジネスで生産性
向上と労働力不足解消に貢献

PUDU T300



©Pudu Technology Inc. | SoftBank Robotics

AMR：自動搬送ロボット
工場や倉庫での物流搬送で需要拡大

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

1 次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成

<選ばれる商社となるために>

各メーカーとの複合展、ミニ展、セミナーの開催、デモ機の有効活用等、
営業担当者個々のスキルアップ

<2024年度 大型展示会出展実績>

- 2024年 7月24日～26日（東京ビッグサイト）
工場内の協働ロボット利活用展 来場者2,253名
- 2024年 8月22日～23日（サンフェスタ・仙台市）
UR協働ロボットフェアin仙台 来場者:127名
- 2024年 10月2日～4日（インテックス大阪）
機械要素技術展【大阪】 来場者:2,268名

<2025年度 大型展示会出展予定>

- 2025年 7月23日～25日（東京ビッグサイト）
工場内の協働ロボット利活用展
- 2025年 10月1日～3日（インテックス大阪）
機械要素技術展【大阪】



展示会場ブースの様子



各種協働ロボット デモ実演



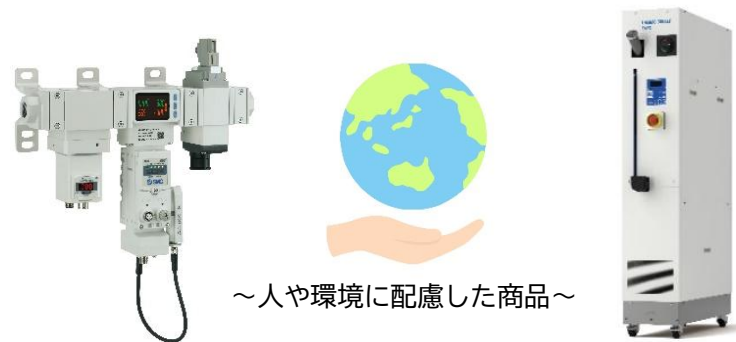
Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

2-① 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

～環境にやさしい商品～

■環境負荷低減商品

サプライチェーン排出量の削減に向けて環境に配慮された商品の販売を推進していきます。各メーカーにおいても、商品の製造工程におけるCO2排出量の削減取組みが進んでおります。



■環境への配慮

当社グループにおける温室効果ガス(CO2)排出量削減のため、Scope 1～3(サプライチェーン排出量)の算定を実施しております。今後は算定結果に基づき削減目標の数値化と具体化を行い、削減活動に取り組んでまいります。

【当社グループ 過年度(2023年度)のScope排出量(単位:t-CO2)】

	内容	排出量	比率	中期的な削減の取組み
Scope1	燃料燃焼(ガソリン)	341	0.4%	営業車の50%をHV車へ切替
Scope2	電気使用(電力)	196	0.2%	事業所電力を100%再エネに切替
Scope3	サプライチェーン	81,392	99.4%	①環境負荷低減商品の拡充 カテゴリ 1・11 ②廃棄物削減、輸送の効率化 カテゴリ 4・5・9
	合計	81,929	100.0%	

※2024年度についてもScopeの算定を実施しており、随時公開いたします。

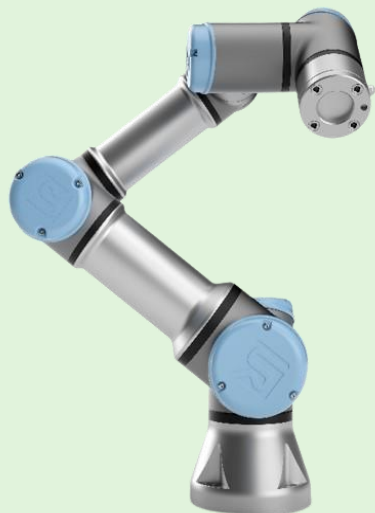
Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

2-② 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

～ 人にやさしい商品 ～

協働ロボットとは、本体に安全センサーを組み込むなど、人に対する安全性を確保できるようになったロボットです。特別な安全対策を講じる必要が少なく、作業者のすぐ近くで使用できることから、導入の幅が広がっております。

ユニバーサルロボット
UReシリーズ



カワダロボティクス(株)
NEXTAGE



Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

3 装置ビジネスの更なる販売強化

<単品販売からトータルソリューションの提供へ>

労働人口の減少に伴う自動化の流れに対応した装置ビジネスの更なる販売強化を推進。技術専門商社として蓄積されたノウハウを活かし、お客様へ更なるソリューション提案を行います。

自動化システム・ロボットシステム “FA PLANNER TOBA”

気候変動等環境問題	労働人口の減少
CO ₂ 排出量低減商品の提供	ロボットの提案による省人化 自動化システムの提案
人材の確保・育成	サステナビリティ
システムエンジニアリング人材強化 各種技能資格等の取得推進	自動化による生産の効率化 労働環境改善による社会貢献

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

4 技術商社としての存在価値強化 ～ブランド強化～

<国内営業所の新規開設>

西日本ブロック

滋賀営業所
大阪営業所
兵庫営業所
広島営業所
福岡営業所
大分営業所

関東ブロック

茨城営業所
千葉営業所
東京営業所
東京南営業所
八王子営業所
厚木営業所
甲府営業所

北関東ブロック

青森営業所
仙台営業所
宇都宮営業所
前橋営業所
熊谷営業所
川越営業所

本社

営業本部・管理本部
特機システム部
海外事業グループ
仕入グループ

中部ブロック

松本営業所
静岡営業所
名古屋営業所

四日市営業所 ※2024年4月開設



国内23ヶ所の営業拠点

全国各地に拠点を設置し、
徹底したサポート体制を実現。

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

5 海外拠点との連携強化

- ・国外5ヶ所の営業拠点
- ・若手人材の成長に伴い、海外現法へ積極的に配置

中国

鳥羽(上海)貿易有限公司 (2008年)
(同公司)深圳分公司 (2011年)
(同公司)蘇州分公司 (2014年)



ベトナム

TOBA, INC. (VIETNAM) CO., LTD (2020年)



タイ

TOBA (THAILAND) CO., LTD. (2012年)

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

<企業価値の向上 ①人的資本経営>

当社はサステナビリティ委員会においてESGの観点から重要課題を抽出し、課題解決に取り組んでおり、人的資本経営の強化は当社の企業価値向上に資すると判断し、優先的に取り組んでおります。

◆ワークライフバランスと女性活躍の推進

2025年3月に女性活躍推進法による「えるぼし認定」を取得。

◆健康経営の推進

健康保険組合より健康推進の取組みを評価され「銀の認証」を取得。

◆職場環境整備、エンゲージメント向上

継続的に安心して働ける職場環境の整備を推進。

◆人材強化：各種資格取得による営業提案力の強化

技術専門商社として必要なスキルを維持するための各種資格取得の推進。

各種資格取得者数：延べ 325名（2025年3月末現在）

◆社員昇格制度と教育研修制度の強化

職能等級資格評価制度を導入。

教育研修制度の推進によるエンゲージメントの向上。



<研修施設での教育研修>

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

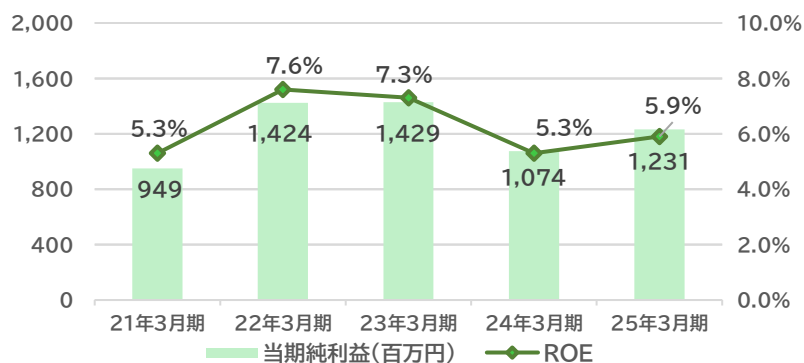
<企業価値の向上 ②経営指標>

～ 当社目標値 ROE 8.0% / PBR 1.0倍以上 ～

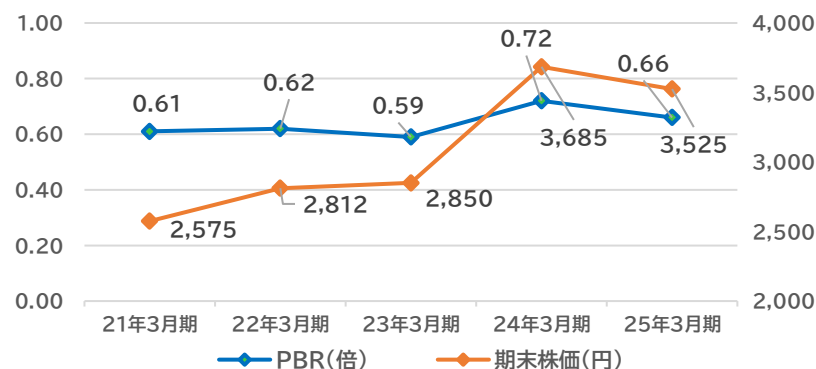
◆目標達成のための取組み

中期経営計画における事業拡大戦略の実行と業務効率化の推進による収益性の向上を目指します。人的資本への積極投資を行い、IR活動や非財務情報の適切な開示及び最適な株主還元(配当・自社株買い等)を実行し、株式市場からの評価を得ることで企業価値の向上を目指します。

ROEと当期純利益の推移



PBRと当社株価の推移



売上高	営業利益	株価 (25/3月末)	年間配当 (予定)	配当性向 (予定)	配当利回り (予定)	ROE 自己資本利益率	PER 株価収益率	PBR 株価純資産倍率
315億円	17億円	3,525円	130円	41.8%	3.7%	5.9%	11.3倍	0.66倍

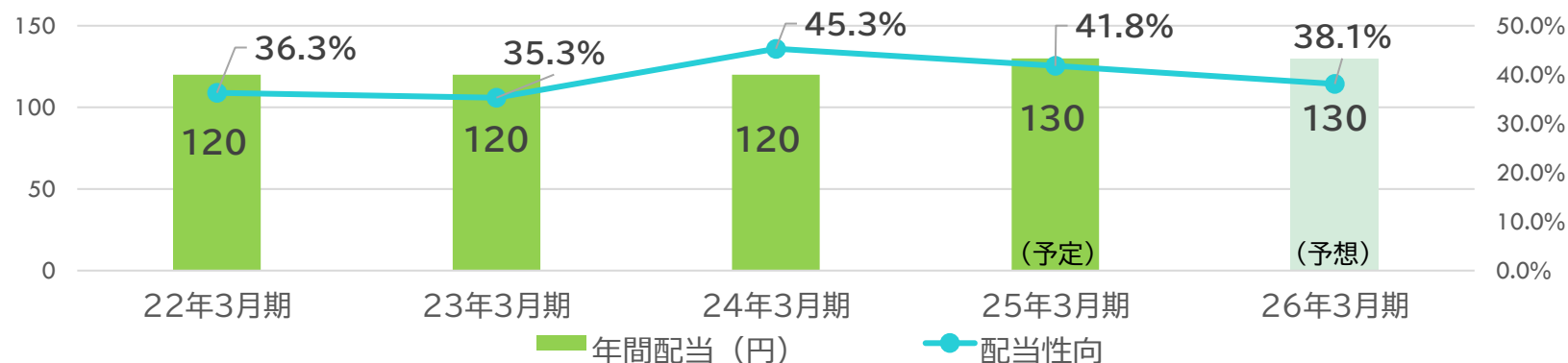
※上記表の数値は、2025年3月末時点の株価で算出しております。

Ⅱ. 2026年3月期の戦略及び見通し

<企業価値の向上 ③株主還元について>

- ◆ 配当方針:長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする

配当金と配当性向の実績推移



- ◆ 自己株式の取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応

実施時期	取得株式数	取得単価	取得額	発行済み株式総数 に対する割合
2021年11月	70,000株	2,561円	179百万円	1.4%
2022年2月	50,000株	2,780円	139百万円	1.0%
2022年11月	145,000株	2,750円	398百万円	3.1%
2023年5月	33,800株	2,940円	99百万円	0.7%
2023年11月	80,000株	3,115円	249百万円	1.7%
2024年5月	56,000株	3,600円	201百万円	1.2%
合計	434,800株	-	1,267百万円	-

この資料には、2025年5月8日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当
住所: 〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号
電話番号: 03-3944-4031
FAX番号: 03-3944-4091
Eメール: kanri-01@toba.co.jp